

武江年表

七

和書門			
二五二五五	一五七	八	冊架函號類

庫文閣内			
二五二五五	一五七	八	冊架函號類

内閣文庫			
番號	和 25255		
冊數	8 (7)		
函號	141	87	



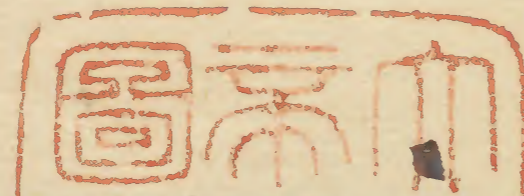
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





武江年表卷之七

寛政元年己酉

正月廿五日改元 六月国

○天明七年の頃より碑文谷いりんや法花はっけの仁王におう諸形成就しよけいじゆじゆよりして貴族

男女系譜おんなこゝろの事あり次第しだい小群集こぐんしゆ夥おほし十二年じふにねんよりして純じゆん若乃令わがれのみ

○二月廿七日にふとうにち米穀豊饒こめこくほうじやうあり○永代えいだい小成田山不動おのりなりやまふどう子こ法はふ

有り茶納ちやなう抄しやうあり茶指ちやさし羣集ぐんしゆあり○淡路たんろ親おん生修しゆ霞かすみ○五月十九日

儒師じゆし入江北海いりやうくわい卒す名貞なてい孫まご右みぎ海うみ○七月七日しちがつしちにち狂言きやうげん師し平へい杖しやう系けい他た卒す内うち者もの宿しゆく烟えん冊さふ全ぜん在あり

○七月七日しちがつしちにち狂言きやうげん師し徳川春町とくがわはるまち卒す道みち称なづ倉くら徳とく平へい卒す道みち称なづ倉くら徳とく平へい卒す

○八月八日はつがつはちにち大風雨おほいかに家屋けあやをを損こび深川ふかがわ辺へ大水おほい○八月はつがつ市谷いちや先徳せんとく院いんあり川がわ口ぐち錫杖しやくしやう

○此地このち為なるる因帳いんちやう○南みなみ能の人ひと谷や風かぜ枕まくら之の助すけ小野川おののがわ喜き三さん郎らう横よこ綱づな免めん許きよ又また九く紋もん籠かご

閏六月
廿日
目白
長谷寺
あて
竹生
母天
觀世音
冊帳

武江年表卷之七

とつる角力取行る○十月より始り大川筋を外川と河津港中洲築地
取拂せしむ聖年ふりり元の水面とある○十二月廿日夕暮夜へけと再甘
露降○深川寺町法楽院不動尊流石出し初形の新多し

○本新相代町本義火除と成り代地深川高橋戸田東女正殿法屋後
の地をさつる○祇佛の開帳年ふ盛みくく敷るおけりしと寛政より
享和連のり季く徳せり地せりし高貫敷等と次編み詳あるべし

寛政二年庚戌

正月廿一日本新相代町より出火所村百姓屋連焼る○三月九日画人劉安
堂卒 号秀山 麻布 曹溪より公孫氏 ○三月十日下谷橋前社祭礼産子町より出し遺物出
る ○永代寺より京師大佛の内并才毛開帳との
る境内見せ抱ふ壬生程言せ出火せられしと云ふ故てもるを物と封巾筒

の輩も酒宴の身ふられせり○神奈川浦宿に親世青江戸ふく開帳
而不祥天宮より ○八月十日野栗川院典信卒 卒 ○八月廿三日前白舟点者

川柳卒 俗姓せり方よりこれをも傳へしと云ふ ○八月廿三日
孫再川柳五世より及以柳栂の后軒年ふ持仍せり按る小室曆の以武出川といふ
能潜の白集ありしと云ふ俗傳を述る川柳もこれよりと愛せしりといふ

○九月六日儒師山中天水卒 二十才名若く称稱平 ○十一月廿七日夜大地震
○十一月琉球人東聘 正使宜博 藩采のりて居士とて採る 宜博王子

○十二月二日夜甘露降 ○粥田回春成 天のりりとのく、御名貞雄と云回蜀山 武江の雜り回春の書あり

○琉球轉刊行 表島中良著 又朝鮮條も刊行せり ○磁器焼焼登始る

○正月十音儒師平沢旭山卒 平九才名先性林五郎 徐川法禪と云義氏 ○二月十音より五十日の間儀
草寺親世寺開帳 ○市井の法令を改るは傍間の費用を減し積令始る

白旗卒

平之末品川
海晏子小暮氏

○九月廿七日儒師松田拙齋卒

名長茶麻布
天竺の草花

○神田明神祭祓禊年より神産ある也始り

享和より軽業あり後文化
年中より踊り小あそび

附云六ハ

三組と成る

年産の初む一をより一組の出来し一が
後年より小超してその頭緒物也と云

○十二月九日回向院一命せられ永代

○十二月十四日十五日神田社年の市

浅草市、隣の町名として
後年廿日廿日不改む

○十二月廿日下谷火事

深川側傍名物の荒とほ九月言彼の
後修り

寛政四年壬子

二月

二月初午の日芝日比谷稲荷祭祓禊子町より出一練物を出以○二月七日

麹町火事○壬二月六日詩人安達文仲卒

名條馬場三の橋
志守小暮氏

○四月の日より米價

○五月十四日新井白蛾卒

六十才林謙吉と云
易樹小暮あり

○護國寺にて秋又二十四番

○六月十日音山王所系礼附系三組と成る

神田小園トされと云
本枝本町社下より中暮りし

○六月餅鳥居安側一町舎所初花を建る是迄ハ大的場あり

○六月十八日亥刻光物西南より東山一飛大さ笠の志と一○七月廿一日飛戸

梅後家の梅舊根焼失はり江戸砂子書入といふ事中あり

○七月廿一日南大風已上刻麻布并橋より出空就土今井谷赤坂青山比谷

今遠麹町番町飯田町小石川河門小川町三橋稲荷の社辺追焼亡 此後

番町麹町の裏に火除の地出来る○牛込赤坂道西側の山下

何某屋邸あり空餘に植木松石をて在一が此時麹町の善園寺と龍田

何某の邸小あり後以後後町家を改まり○八月十二日画人松林山人卒

大川を○西本願寺所堂再建

龍明和宮内構中より考進考者三十二人六八人系列の
たをを指東是代あり建の初は建方之といふ所

○谷中感應寺今天五重塔昭和九年二月廿九日焼る成

今年再建あり○十一月七日儒師千葉若菜閣卒

名之之稱後考あり
千石木徳様と小暮氏

○十二月八日

○十二月十八日下総八幡宮社内塔の古樹を垣穿る小古鏡をえりり三戸
落り二尺一寸元亨元年酉十二月十七日別当初田と彫る

寛政五年癸丑

正月関東地震○麹町台石去年火除の為地を石とられ神樂坂小代地を
あつりけるが今年二月善法成林して廿七日毘沙門天^{せんざ}遷座あり○二月浅草寺
奥山ふふび様救株を栽る○三月六日より茅場町茶師境内を房州鏡
浦西行寺西新法師像開帳○梅場神明宮内天満宮開帳○五月より
九月中を江戸霖雨大川出水○五月廿日書家荒木吳江卒 号平水丸山 長妻小葉氏
○九月先達て魯西亞^{おろーや}漂流して帰朝せし伊勢白子の新沢幸太夫磯吉江
戸^{一乗} 天延二年十二月強河神を經風不遠以漂流せしといふ故昔今年廿八歳一が幼の後
程よく平りり幸太夫は今年廿二才版回町の河某園ありて後若妻を保りて也
○十月廿五日湯島松平雲外度以別館より出火祚田急奉町石町堺町

葦原町芝居日本橋辺近野焼す○十二月柳系土手下町在の内須田町

二丁目小柳町平永町小北側を取拂り是外祚田小代地を賜り明地中

成後小叔藏を建らる 町舎所叔藏の 速坊より ○月日儒師原敬仲卒 名恭胤雙桂の二 男あり又雙桂名ハ

諭号尚庵昭和四年九月廿日卒行とも小約近吉祥寺中
の泉も小葉氏系小漏せし故く小葉氏

同 六年甲寅 十一月間

正月十日未中刺殺町五丁目秋田在何果といふ酒屋より出火烈風より

山五所社水田馬場露が冥虎河の外様田辺徳彦藩邸救宇野焼幸梅

河門焼壺宿下日蔭町新橋芝新橋産仙臺舎津家小一山焼亡せり

○正月廿日佛人金羅卒 号佛正堂也 小葉氏 ○二月廿八日儒師吉田子方卒 根 岩

吾性也 小葉氏 三月幸橋河門外兼房町和泉町船泊町坊町伏見町若右

場町町久保町左左町町小の内火除の為町家を取拂ひ思地とせしれ

當時の所を以て武家地と存せし外、後されては所一代地をありし

○川口善光寺如來開帳 糸清羣集して川口の渡一船覆り怪象人多あり

○四月二十日吉原江戸町武丁より出火一廓焼亡 仮宅田町聖天所山の者 元町へ出る

○四月十七日青山梅窓院主著山和尚寂 詩及びひそせ ○四月廿七日儒師菅

野子徳卒 名義直丸山 本抄云小葉 ○六月十日儒師街里里卒 清葉よりやせり 山見云小葉 ○八月十九日

國学者林清馬卒 林和助号林居士備院又著以 男と名枝としふ文化五年卒以 ○秋葉野六の梅溝の内匠製

送る梅杭せしめて拭る衣奇巧あり 文化よりてその 如く梅杭をまき ○十月晦日舟人伊藤松

軒卒 名倚松庵青山 梅窓院小葉以 ○十一月二日子刻大地震 ○十一月四日象刻藏六居

士卒 在所灵山より小 葬以 ○十二月廿九日将野氷種高信卒 卒年深川 浄なる小葉 ○江戸地誌

号巡抄所と定む は梅子の梅子の 菜子記あり ○四神地名録字不成 古に新黄薇山人編輯 之郎の名正記あり

○出羽園より大童山文太郎出十一才肥満して廿二歳日乃角力を取一が年

長くと弱くあれり ○當道文記録成字中再 一ツ目并天社後 浮島深森著

寛政七年乙卯

正月九日谷風槐之助終 は十才才仙臺(葬以)江守也 具頭ありし角力あり ○正月十日西小大風市谷柳丁

より出火乾燒多し ○二月十三日書家細井竹園卒 名庸林決并年八十二才あり 浅葉若思吉小葉以

○三月十八日より二十日浅葉寺親世音開帳風雷神門再建成立二月十日二神

と安魚以 ○六月七日儒師清水江東卒 卒年九十谷の商家大政也 如考るといふ人著述あり ○六月十五日

夜大雷廿六日雨一落ると云 ○七月八日儒師市川雀鳴卒 名匡林安門あり 西遊光記云小葉以

○七月十三日星月を費く ○八月七日梅柳軒重明卒 名修田主水といふ上州 相井園の産者といふ

師の門人ありて和方小名あり寿七十二 谷中又主中より悦ぶ小葉以 ○八月十日普濟川八幡宮名秋子町より

出練物未と出と ○九月十日儒師三浦瓶山卒 名衛良格在云勝中の中 徒云小葉以男と異山といふ

○秋凶化米穀價登揚以 ○九月廿一日青山久保町熊野権現系乳産子

町より出づ物物を出せ ○十月十日太田大洲卒 七十才名法元中折天法を以て
本業少くして人あり

寛政八年丙辰

正月白牛酪賣弘の事を命し 享保中房明嶺岡小白牛七放養せしめて白牛酪
製法を命せしむるに僅小三戸ありて其時代より

○二月谷中感應寺毘沙門天開帳 ○夏先口新田明祐卒 ○芝泉岳寺

釈迦八相曼荼羅開帳 義士の遺物とせしむ ○四月十二日在哥師兼揚菴

先卒 松壽寺古傳の約辺
瑞泰寺小菴に ○六月九日在越明神系礼神樂を演じし結末の

おかしう其後中絶す ○六月十日書家澤田東江卒 六十才保鱗一号玉向
山人松文二并といふ系を

華以 ○九月卒所小古納次立不達 ○十月四日抗軒名貞雄君卒 八十才古実若くして又江中地理の古編書あり
は谷戒行も小菴に

○十一月琉球人來傳 正使大宜見王子
おかしき見王子

副使安村親方 柴野彦補琉球令と
草法務答あり ○十二月六日儒師黒沢維岡卒 名萬新 松右仲
八十才

同 九年丁巳 七月望

二月廿八日物野洞春卒 名對信上世
横水院小菴 ○春三田龜藍親世考不姓 ○おが江

の島舟才大開帳江戸より請人あり ○四月廿七日画人三輪花信齊卒 名い
在榮

牡丹芍薬小宵く咲くは物群集せり ○六月三日狂言師兼小戯作松若 名い
在榮

唐丸卒 若重三并と云倫長紙也
山谷正法も小菴に ○橋の異品を弄ぶ事流 橋品弄指品於若木
木末を弄りし

○七月六日大雷所小落 ○七月十日中村佛庵景連 名い
在榮

そけ子宗錫を伴ひ法書する世言(痛)水船中又川の辺小いりり水函小

矢橋宮の本像を均て享和元年深川法禪寺に安置 旭天徳宮
と銘 ○七月廿日

吉実若真野是翁卒 若安通孫七郎六十才
瀬町正法も小菴に ○十月町火消人足の内始二百七十四

人の頭取を命せり ○十月廿二日在堂家法後郎向佐久百町の六かや

より出火茶研堀の辺より大川を越深川の宮堀八名川所へ飛海辺新田本
場追焼亡○十一月廿二日武器古実若林系香山卒 名長俊孫一宗各帝天皇中
了院より葬

○十二月十八日醫師宇田川玄隨卒 名清号樞園世系中
妻院又兼男を玄真と云 ○十二月廿二日他人

妍高津富卒 卒七十八才
茶書号中兼 ○東海道名新圖會六冊梓乃 株里を難高著
名家合画

○和漢年契一卷梓乃 坊別の人高祖著大平小本二部あり又寛政十一年坊所の
人小て惠光子編和漢年代肇要二巻と梓乃

寛政十年戊午

改曆頒仍寛政曆と号○二月十九日俳人小菅宝馬卒 一日ふふ十日身終り
本堂と号七十七才

○四月金彫工六森英秀卒 二十九年
号海海 ○五月朔日足川伸より縣 以何日もの年号あり
所境内山の上ふ筑籠を以て大佛の像を造り相袖

○六月廿三日画人梅里山人卒 名西洲五師あり
中の名成松と号 ○七月より深川新大橋

○六月廿三日画人梅里山人卒 名西洲五師あり
中の名成松と号 ○七月より深川新大橋

○六月廿三日画人梅里山人卒 名西洲五師あり
中の名成松と号 ○七月より深川新大橋

の向小粉菰を建てる此所の町家半辺着所の辺より代地をりりあり
今乃半辺岩戸町之○九月一日儒師若田重暎卒 卒八十八才
各年大橋より小
葬

○九月十一日狩野永賢泰信卒 ○十月廿八日茶人守屋宗孫卒 号政月菴
西乃小兼

○十月廿九日初夜より以下り星多々飛んく夜半よりふまうて空の氣

色一面ふ雲の捲るり如く見えし之○十一月三日金星の捲るり空の如く

○儒師岳麻谷卒 名立浩稱号非業菴
七十二才月日不詳 ○十二月十二日狂言師末樂常河卒 六十一才
株山橋

○十二月十二日狂言師末樂常河卒 六十一才
株山橋

○十二月十二日狂言師末樂常河卒 六十一才
株山橋

○十二月十二日狂言師末樂常河卒 六十一才
株山橋

○十二月十二日狂言師末樂常河卒 六十一才
株山橋

○十二月十二日狂言師末樂常河卒 六十一才
株山橋

○十二月十二日狂言師末樂常河卒 六十一才
株山橋

○十二月十二日狂言師末樂常河卒 六十一才
株山橋

同十一年己未

正月廿九日二河町より同より出火神田辺町追焼亡此後鎌倉河岸

町追焼亡○二月十五日三圍稻

新開地 奉納造り物ありたり日幸指白木極より天香紙ありて法より牛馬本質の本偶を
叔父同様の飾物ありてつくひの始あり茶清奉納をとりおひり

○聖堂沖再建境内廣うて大慶落以 ○湯島風閣湯島山修驗 青山

久保町橋湯島ふりし龜有町橋一代地をありしも代時あり

○三月彼行者千百年忌勅して林妻大井の号を賜ふ ○靈岸島埋立

地小蝦夷地産物會所建 夏寺修村法泉寺 勅を賜ふ

○六月四日より谷系村長命寺 山内謙本の福人の面小歌

見物多し ○七月六日夜大雷子刻大雹降 ○六月十九日儒師佐久男

文示卒 八月青山海鏡も檀家和泉孫持右衛門の家

小一は五尾何り刑罰の首級六百を賜ふ當寺小華供養の塚を建

○十一月十九日夜ハツ時より大雨大雷散る雨落る

寛政十二年庚申 四月閏

正月廿六日夜谷中いろは茶屋より出火近邊寺院多く焼

○二月廿三日亥半刻田圃龍泉寺町より出火吉原京町龍廓中焼亡

○七月朔日より護國寺より後父三十四番觀世音園地

○四月廿九日關其寧卒 五月四月七日佛人山内

花縣卒 五月十一月官儒服部栗秋卒

○銀座常是報在町より蛸壳町へ移る ○九月十日頃より比湖出市十郎

死 十月六月日金雕工菊岡氏祖先行卒

卒 十二月廿七日書家楠桑華溪卒

○今年富士山女人の系傍ありし ○浮世繪類考成写本一卷

○浮世繪類考成写本一卷 内東
○江戸佐古園説成 京傳
○浮世繪類考成写本一卷 内東
○江戸佐古園説成 京傳
○浮世繪類考成写本一卷 内東
○江戸佐古園説成 京傳

此年間記事

毎月毎日上野為大師遷座の時系指草集はる事寛政の以より始り
 此時代名家△儒家山本北山龜田勝齋・細井平洲・服部栗秋・柴野栗山
 古賀精里・杉井白蛾 易術 △画家高岩若・谷文晁・董九如・長谷川雪嶺
 鈴木芙蓉・森蒙秋△狂哥師・唐衣揚洲・尚左堂俊満 又傳世倫 狂方堂
 真秋・六樹園版盛・蜀山人・芍菜亭長根△浮世繪師・多文齋・榮之
 勝川春好・日喜英 九徳母 東洲寫樂・森多川哥磨・北尾重政・同
 改演 京傳 同政美 惠母 慶俊満 尚大書と号 葛飾北秋 狂方の物讀本 哥磨
 妓堂艶鏡・榮松・赤松・榮佳・母春童・田中益信・古川三繁・堀等琳
 金長・まゝ狂方或名弘の物物小瀬人刷工の巧をつと花簾を極る事以
 時代より盛なり○奥尾庵の我衣小榮・学医の始祖と云ふ中川須菴志保
 子一が墨子辰屋後奥平屋の侍医前野良澤 号榮化 小半ひさるり子門

人・秋田元伯・宇田川玄隨・桂川甫周・大槻玄澤 あかつき ぬのり大不若 おろし 小若
 世道なれりといふ○浅草寺隨才門前の茶店輕波屋のおきた茶研堀門高
 島のおひさ・芝林明子・葉本のおんこの三人は女の字えりて隱居せりと
 名は店小憩人引もきべ○吾系府屋の名妓花前老母小孝人の字えりて素袍
 の清人・費晴湖・湯陽小ありてこの孝娼妓が事を守これを替へる事あり
 曲亭の素雜の記小載り○婦女のたぶらふてびを有り始む 近京中路り
 ○堆米標衣秋はる○鞘画の裁きはる○いつの以より始り○西が系
 小湯島の牡丹屋太右衛門が別荘ありて花壇小紅白の牡丹英々たる事
 盛の以貴族豪華集せり 文化の始 ○酒樓よ於る書画會を信はる事以
 始り 近江守の名家と畫傳小書画會の寛政の以鎌倉の ○兎世堂の院ふ切り組燈
 籠修の上方りの物へまね始り系いけすの生洲大坂の乙浦祭の圖杯を重板せり

村田馬車業師如某閣帳 ○二月より四月おまう内邪流乃様民は救米結
を下くあふ 俗ふおせ風と云八百番 ○三月八日より本下川業師如某閣帳
おせの小風と云り云云

○月十日より根津社地不在の土野尾天神閣帳 ○月十五日より月忌は天
る本為閣帳靈室を拜せしむ ○三月廿日釜間巨山卒 乃場橋の例に任せり小川破
釜間巨山又分りありて

○四月朔日より流谷金五八幡宮閣帳 ○五月十八日富
本延壽坊死 中の成徳
お小葬儀

○五月本の元才莊といふ人焼捨を再興し命席と
設く 焼捨へちのさし紙を焼く画く多濃流自まふて考成りて画く如く昔ありけり
徳をふさび起しる由あり

○六月霖雨七月不雨八月雨深川辺洪水 武州権現堂押切といふ
通形成る

○七月十八日程方師唐夜檣御卒 七十六才松小島源三郎
可木津寺小葬儀

○七月廿二日画工董九如 名流松林八
弓田室重小葬

○八月十二日儒師高原子行卒 名流松林八
弓田室重小葬

○九月廿四日小石川山権現堂被焚者子町と出下練物出 名流松林八
弓田室重小葬

○十月十九日夜去時色方牛辺田焼亡 ○十二月九日深夜が駒込出火夜明未
る追焼 ○月十一日根津門前番屋所焼亡 ○賤のどきり成 写本一再森山某
の筆記ありて

○十一月四日暮六時迄大地震 ○三月より浅草五果寺にてわが星降山妙純
仲 大

○三月四日暮六時迄大地震 ○三月より浅草五果寺にてわが星降山妙純
仲 大

○四月より六月より麻務流乃入る死是 ○五月廿五日
西より来一船の赤雲様なる ○五月廿八日より下谷橋若閣帳 ○同日

○五月廿八日より下谷橋若閣帳 ○同日

○同日

○同日

○同日

○同日

○同日

○同日

○同日

○同日

○同日

○同日

浅草寺中梅園院より相馬大山麓林泉寺子安親世寺開帳 ○六月朔日より
回向院より新末光明寺雷雷親世寺開帳 ○同日より浅草寺傳法院より信州
善光寺如來開帳 ○月十日より廿日の間奉祈一丁目新大天開帳

○六月十六日の学老中澤道二卒 七十九才 深川後以
如芳子小妻以 ○六月廿九日國學老大塚

嘉樹卒 格一才右馬 号蒼梧 年三十八
浅草寺中若中若小妻以 ○詩人水原左葉卒 八十三才 名伴 具林才六
浅草寺中若中若小妻以

○七月高嵩漢信宣撰の圖を画く浅草親善堂の外障小掲く

○七月朔日より浅草寺中金毘院より相馬大圓寺新迹如來開帳

○同日より永代寺より常陸國羽波大杉大明神開帳 ○七月より奉奉祈

るあり水戸磐船社より如信上人像開帳 宝物多し ○七月朔日より浅草

寺内正福院より越後頸城郡居多社大國主像開帳 宗展菴日の丸の
名号を掲せしむ

○八月折系燈の例小初藏を建らふ ○八月谷中延命院住持日道傍律

を犯し嚴科小處せしれしと云えし ○十月朔日伊豆大島燒二日江戸中

原降 ○十二月挿花の師益壽舟屋卒 八十八才 翌年七月門人小浅草奥山(碑)を考
子若人の文あり

○後の昔物落成 厚年夏 てんかのありち西条後江のぬし(史)
送らうま浅之室曆(某)の風俗を考らる ○今年二月中旬より

浅草回園立花廣所下藩誌書太郎指荷社利生ありあり江戶

最近在の老若系諸羣集はるる略し 附り羣集より右後
朔日十廿廿日午の日開門之 型文化元年ふ

いより経藝昌一奉他物山の如く道路より酒肆茶店を別て掲ひて一二

年ありて自然止むより 此所の筆紙一枚繪小唄の筆のありあり文化元年抱(上)
画今の時『繪』をわくがけいさるる由太郎(史)も應社(史)も

○群書類從板行 六百三十六卷 搦檢校輯板あり
此節より進み上不成

此年間の記事

小金井村の櫻寛政の以の詠る人ありし由古松軒が四林地名録に記
しりり享和の以より騷人筆客多し集ひて毎集遊覧の和とあり

長き六の冊子一枚
多く刊行せり

至り海より己の所来りて其の雲は中ゆく水のしりたわ 千夜

○せんちや せんちや 長江今新る ○山東系傳曲馬琴が漢本を以て作られたる

教篇を挿入す又系長板より画入漢本新化何事も挿入して江戸中世

は條江戶戲作若ハ式亭三馬六樹園坂盛小枝の教山翁又 盛和亭 鬼武 敬齋 陳人

十返舎一九振筆亭 漢海樓馬馬高井崇山 山東京山百樹 芥菜亭 本根

折多程彦梅暮里谷峨 神屋蓬州 南山笑楚満人 東里山人 東西茶

南北 其外多し 系長板作若ハ 粟粒多 鬼卯 合浦免月 優々 彼 折波 文磨 木の編色

画若ハ 石田玉山 門人二世 尾田玉山 青陽 井井 圓一 峯 母る 田 丹 柳 枕 漢

合川 次和 杉原 修 速水 其 暁 秋 未 舟 程 あり 喜 暁 未 画 入 あり

○せんちや 金豊廣 蹄鞍小馬 雷剛 葉画 盈我北公 関楼小嵩 小亭 上

葵岡北溪 ○北尾蕙 秋畧画式と号し 淳世繪の畧画を工せし 粉巻摺
の粉本教篇を挿入す ○淳世繪師 我 鈴屋嘉信といひ 其の長崎小舟の
蘭画を学以後江戸小舟り世より名を同馬江漢と改む 又新板を日本
小笠創せるも此人の功也 ○此は近山水の遠景を画す一枚繪を 享和以来東京傳の編る
近世奇祿考 骨董集 二部の隨筆世に流れてしり 此神裁と名づけせり
戲作者各隨筆を何れも此事始まり 掩れとも系傳の作本並にあり 然る
野鄙ありの多し ○原舟月 雛人形の製を改て古今雛と名づけせり
とるり ○享和中あやねん葉嶋といふ人 寺島村小松園を設け 四時
の花を裁く遊賞の所とあり 奥州の人ふり 江戸小舟り此和名保
天保の始終り 葉嶋始成人名つけて 淨重といふ 文字をいそく 改りて 江戸小舟り 此和名保
此和名保 江戸小舟り 此和名保
此の奇小

武江年表卷之七

中一巻上望日死骸 ○八月四日俳人素後卒 二十五年河 ○八月廿三日画人高嵩

谷卒 七十九才名雄号房翁 ○八月廿五日玄々一卒 二十三年俳借を好み高人の極家

○浅草藪の内南部駒の市毎年ありしは當年より止む是より後ハ所願主

藩内ハ若以 ○十一月廿二日画工佐照書雲卒 名貫多称倉次号中岳堂後子

号ト画 ○今年法園を熱之 世に於て中村名流小暮以女を英之

文化二年乙丑 八月間

二月十五日より根津権現草比十面観世音開帳 ○三月八日より谷中一

宗寺祖師開帳 ○同日より龜戸香取社境内より京於西鴨清涼山金

毘羅権現開帳 ○八月十二日より回向院より青山若光寺如來開帳

○八月廿二日より永代寺より五川町神開帳 ○八月廿八日より龜戸東骨寺不動

寺開帳 ○二月芝神の宮境内より勧進南力あり所八月十六日八月日息行

日水引といふ南力取給の若と喧嘩不及以四口車一人加勢しく大勢せむを

ありし開帳なる ○三月中旬高島芝居機案あり出立の女あり

芝居主をこれ若光とて祝ふと云 ○四月廿日南宗川海雲寺千祥荒神

開帳 ○五月俳師神田菴小知西國情畔の柏戸小於て八十八齡の賀道を儲く

仙ハ沆瀣朝霞の氣を吸く長壽一我ら

月 雲 や 吾 菴 び の 生 花 小 知

○六月七月あり ○六月十九日生妻村廻の川若流あはし時人骨

出する骸一是古戦場の存ありしと云 の善徳なるは枯骨を

浅草草龍寺へ収め墓を築し是法形成就と云ふして七月より

系編群集の事駭あり 三月廿七日あり ○八月七日築刻家島家舞卒 名不詳

○八月廿七日儒師神谷東溪卒 名謙称海云 ○十月十七日書画師金

定河津定通年

此の初より不義以年安の人より出尾を不
含客より一人あり賄録小録の編あり

○十一月深川二十三

間堂再建成功

翌年宮の二月
村始あり

○本曾成乃名所園令持行

秋里藪島某
為村中画

○十二月廿廿画人井川雪下園卒

名貞孫源之清坂中光とす
葬以

文化三年丙寅

三月より永代とす成田不動寺開帳 ○同月より護国寺より河内の本

葛井寺

十一番
十番

親世寺開帳 ○三月三日江戸火西南より東北へ飛ぶ

○三月四日登九ツ崎芝車町より火坤契風あり七右堀田町の通り三

田薩及家以原浦本芝田金板

傍上ちの
巽隅斗

神明宮森門前田川町通り

左右出雲町竹川町通救急原橋所内外本板町三十万坪板本町系橋

より日本橋迄左右上下位より日本橋小の疎廣より常盤橋所内井室町

本町通り西の縁倉町より三河町稚子町佐柄本町筋遠徳院連東の堀筒

町新築物町新板本町より堀町葺屋町葺葺居為座の跡よりより

富沢町橋町辺横山町馬喰町辺神田川を越えより佐久ろ町板本町

和泉橋以徳士町通り三味線極度徳寺前より町通りより本町筋より裏通

近東の浅草所門外より新橋通り元を越東本筋より若徳寺の辺近焼亡

此男小色すれより武家町家一字も跡を事あり翌六日の昼は時ふのり

て漸く燃えより此時大為隆勢焼九若武里半幅平均七半備度藩邸八十三号

と院六十石並寺名有る神社二十餘ヶ所町救五百二十余町と吹ゆ又

焼死溺死千二百餘人といひり於火小何ひり賤民は救の小屋十五並不人

達より小憩いりぬ食物を捨てる此余の貧民も東錢をぬる

以て貧人成り物りふひを寒くひのりり又盜賊移れぬ物をぬる往來の人を傷み

○四月十四日五日六日の月二夜三日日向院より火焚焼死の業供養の事を

命せらるる ○四月朔日儒師古屋昔陽卒 名高孫十二年七十三

○辯秀堂何某弁文天を信し 金光明最勝王經を書写し 清浄の地へ

納んとして上へ蓋き石を求ふ 石を求ふ 石を約する

堅三天 江の橋(舟納次) ○四月廿八日算術師小川秀藏算昌卒 中野堂

○七月大師の系弘法大師開帳 ○十一月琉球人來聘 二使 濱谷山王子

副使小孫親方 琉球人比嘉親雲上十二月二日終れりは年固事と云ふ其年製しく雲

此親より上老年衣終りしといふ事傳 大田も一蘇送の時のことありしと云ふ

○十一月十三日夜五時葦屋町海峯 友九弟

のより出火して場町より町大坂町まで左邊の町疑波町飴売町近焼る

○大坂新町の石屋志翁 あはれ芝居焼るは火事芝居打出しの古敷と云ふ焼りぬ

といふ若江戸(りり)日本堤を盜賊に遇流芝居世々の利益と云ふの難をま

ぬれりし有り 羽生文化四年法橋周南とて其圖を画し 如意あり揚る 手圖又

○今年米穀豐饒とて價下落をよみて十月市中分限不應トて

買直を命ぜらるる ○十月十三日多孫師丸権左衛門卒 名利通半近系町

○十一月十四日儒師崎允明卒 号終園孫十六丈 ○十月の以より菅原河舟書

画展覽の會を催し 落款を添へ 移し 鑑定を小紙不記し 筒ふこあて

後ふ初 大橋方長著 ○江戸圖副說写本成

文化四年丁卯

二月十四日明六生の東より為(光物)飛ぶ ○春雨少く 梨風の日多く 不

火多し ○二月廿八日より 回向院より 幸手ふ 勅院不動号開帳 廿日江戸到名の

の威勢 錫杖法理の教を執前 龜を奉九千人計り 次小山伏殺十人 兎巾條横りて 二列

以次ふ 大なる芥を搦る 山伏廿人計り 法理を以て 宗山伏八人 厨子林室を殺せ 其時 任

職雲ふ 幸手 伊達乃々 打拍を拵せ 供身の山伏大勢中より 異形の出立するも 有り 近來是程

号一 又本の内ふ火を起し 山伏大勢契火の上を 幸手 幸手 幸手 幸手 幸手 幸手 幸手 幸手 幸手 幸手

二月四日
三月十日
三月十日
三月十日
三月十日
三月十日
三月十日
三月十日
三月十日
三月十日

○二月の頃より品川宿橋向南の森屋何某といつて驛舎の抱版盛女今廿廿日

といふ衣類つら対丈つら六尺七寸容色つらより珍つらしきもの遊つら客多つらく此家日夜

後二年にて廢れる以己の基少なり名残つら波瀾と改め後葉折橋着の向大女の力持と

如末文覚の條岡帳並同つらちみく宮根山権現つら再帳○三月九日或は若事仙笑

楚満人卒楚ん光院○三月十日より大塚復國つらち親世つらる岡帳○四月朔日より

湯島社地より大塚大急つらち見耕菴火防造酒地つら菴岡帳○同日より

愛宕社地より都築那折本村法島つらの林岡帳○四月朔日より後八朝

ち町大仙つらち少々下総中山法華つらち奥院つら祖師岡帳と共小京都つら頂妙つらち二天

五閑帳○當夏つらち園橋辺大川つら夕涼少○六月朔日二日大つら金つら銭つら傾つらるつらむじ

○六月廿日中平井村百姓文六つらといふの逆井村つらの川面つらをつら蜺つらをつら取つらるつらと

義の月小日蓮上人の像つらをつら於つらて平井妙光つらち小飛つらむ○七月十九日より深

川つら淨つらちみく身つら遊つら山七面つらの神岡帳○五月朔より猫つら死つらち事つら驗つら一

○八月朔日より廿日つらのつらるつら涉つら多つら親つら世つら言つら再帳今年法堂修補成り公証書のありて

○八月六日算術師つら後田つら権つら平つら定つら資つら卒号推山

○八月十五日深川八幡宮つら祭つら禮満年小法一けり十二年より喧嘩を休むり

雨天つらちつらく十九日つら小つら延つらるつら同日つら産つら子つらのつら町つらよりつら踊つらりつら遊つら物つらホつらとつら出つらるつら江つら戸つら中つらの

いつらふつら及つらちつら近つら在つらより見物つら出つらるつら是つらはつら時つら靈つら巖つら島つらのつら出つらねり物つら永つら代つら橋つらの

東つら結つらちつらをつら末つらり一つら時つら橋つら上つらのつら住つら末つら群つら集つらのつら以つら中つらよりつら深つら川つらのつら方つらより

事つらあつららつらいつら中つら上つら小つら守つらりつらてつら落つらるつら里つら水つら子つら弱つらちつら助つらりつら一つら稀つらみつら一つら川つら下つらのつらあ

房とありし九子五百人勝といふは、（中略）戸中一宮にて石物小出する
 家族の苦ん大方あり、（中略）新大橋の通路止りて、（中略）國橋を依り、（中略）途ひよ出る
 のの昼夜引可切らば、（中略）官府より厚く命せられ、（中略）水中死骸を引揚し、
 ぬ男女老少を分ちて大橋小橋並りて、（中略）家族為子来りてあしく、（中略）野鳥
 送りて、（中略）以て慈傷のなむ自由にて、（中略）れぬ事ともありしとぞ。
（中略）この時頼末の浮橋といつる
（中略）星紙小妻しく祀せりとあり
 ○八月廿二日 九ツ崎過井橋紐古松大枝折る
 ○八月秋川明神本社造営より年何よりさる崩落り（中略）此以西の方小並
 星ある○暇夷地發動あり○一石橋の橋杭嫩木の樺ありし、（中略）一面小並を
 あり種多成生ば○九月三日酉の刻小東より南へ光り物落ふ大廿鞠法
 ぬく青きあり○九月十六日休田明神多礼所産桑より三河町二十日二十日
 より子供お撲を此に○九月廿一日青山慈野院現宗礼出、（中略）練物出る

之後休む ○十月四日茶人川上不白卒

九十二才号孤峯又田院始不詳云子の如心母の門人中古千家茶及の開基あり

谷中安立ち少桑以墓不ハ天助元年生お不嘗む而之中央小石地龜を龜大袋小形法と稱をたふ戒号とありし方碑あり右小地植丈尺の如きりの刻を携へ以て上小巨をいりてきたる石像とあり、（中略）の右やわかし

○十二月一日官儒柴野栗山卒

七十一才林秀輔号栗山大塚以麻呂小葬以

○月十六日儒師荻生鳳

鳴卒 名天祐称表右侍の三田名村り小葬以

○十二月晦日夜永田馬場火事

文化五年戊辰

六月間

正月九日十日大雪降五十年來の雪といふ所を折る○正月廿二日画人竹沢

養溪卒

名雅坊法名を發る小葬以

○二月朔日夜大雨大雷

○二月十三日狩野春川院推信

卒 六十一

○三月十七日より市谷折所光徳院親世為閑帳

又文化七年午の四月より閑帳あり

○本所寺佛子鬼子母神閑帳

○三月七日画人肉田陶五卒 玄對の男なり

○日墓里小従一位日野貞枝の所寄の碑を建

今年の内縁之常州水産産の戸川安宅の位人保延貞といふ人建るあり

赤あつ日くすの里の花の以て群集して佳果を賞りて或のふあるといふ
あれは群く咲く花の多しといふ日くすの里とあつて

○四月九日御人松露庵を辨せん卒せん 慈法氏大僧 光徳院小僧 ○五月十日より清堂大僧より徳会

妙隆より祖師閑帳 ○六月初旬より雨勢く降り十六日より十八日迄江戸

及近國洪水溢る米穀價甚し ○六月念日氏は救米法をとり賜ふ

○同六月朔日か回向院より葛西半回福花閑帳 ○同六月二日御優尾

上松録四十 回向院より於て昔の御優小をいふ平次が幽魂を吊ふひて施徳魁

を修せしむ人を群集する事難しありて後彼を幸を狂言ふ取組身行

しける小見物山をあせしりこころぬ事ありし久崇ありん事を忘れし其

后ハハツくさる小見物山を喝し此れをせ催りあり ○壬六月十八日より

廿日連大雨降再洪水溢る ○七月回向院より野丹那須野光昭より玉藻

社閑帳 ○七月廿一日夜小入雷少し鳴き六時より大雨を傾うが如

○七月廿五日昼九ツ時より南大風雨家屋を損下怪家人多く巨船楫船

七十餘艘覆り又酒船入津絶て市中酒あり ○八月回向院より於て昨年

永代橋水死の葬一周忌法事修終 ○八月小いりりても雨勢く降り七日

八日大雨江戸諸國洪水溢る ○九月二日加藤子蔭大人卒七年二月卒回向院

○十月芝金杉岡珠より七面大明神閑帳 ○十月四日この日浴湯とれば壽

を減下す即死するよりして中棧入湯する事あり元文元年の以の如く

事ありしとぞ ○十月十日書家細井錦誠卒名知推祿後右衛門廣澤の孫あり

○十二月十九日書家服田赤峰卒名順祿所右衛門 芳村のうりふことり小物

文化六年己巳

正月元日大風雪六時より左内町より吹雪りて万町四日市小細所照降所

新找木町埋所葺屋所為座芝居難彼町寺砂町元濱町辺武家方丈
 たり為園業研垣矢の余諦不いより飛火して本町表町辺焼亡一夜九
 半時終る○正月雨降る日刻烈風吹て火多成りあり○二月永代橋
 新大橋大川橋更負人止る菱垣且船棧仲間引交不成り浪沙止む
 ○二月廿九日牛込火消屋後より空雷町の系近焼亡武家方多焼る
 ○二月十日小日多里妙隆寺祖師宗帳○四月より仍徳徳願寺跡院如來
 園帳○三月廿四日約辺田宗寺より八百屋お七が百廿七回忌法事乃
 清澤年集夥一奇祥收細有障
 の紫信信書する事といふ
 教無岳といふ
 結と善くは
 ○四月より七月迄江の島本宮岩屋兼才天園帳あり江戸より
 系清野一江戸少も亦兼才天園帳有り○五月六日儒師泉豊洲卒
 五十二才稱齊太郎名本建
 深孝光時不葬以
 ○六月六日より日向院より常州真登郡新玉町村

園帳○六月廿一日官医柱川南周卒五十六才名國瑞号月徳老人
 兼加在交場村支院縁の和木橋くが花多々咲り江戸小見物人多り
 ○七月坊場神明宮の内にて武州河嶽山宗麻○七月十九日より本所
 本佛も亦て甲州石和達妙も祖師園帳○七月赤川宜雲も亦英一
 蝶の草塚を築碑を立る市野老彦文を撰一英一珪これを建
 其の刻より廿四日迄大風雨家屋を損事夥く火の足の子鐘を吹落り
 伊豆房徳徳人多く溺死○八月卜者成田朝辰鈴々森八幡宮境内
 小狸塚を築く○今年諸國豊作○九月朔日より二十日の名牛込岩
 戸所南義院兼才天園帳○浅草報恩寺田系所向より今の所一編る
 此所本所教士の地所廣ぐる○九月五日詩人谷林鹿谷卒八十一才名幸備孫十
 浅草深空次即画人文晁の又之
 ち不葬以
 ○九月五日儒師篠本竹堂卒名廉孫久二師
 四谷南寺所榮林も不葬以

○湘布日記三卷字本成

右田中仙先生公用年々
武川の辺に歴あり一時的紀行

○十月三日大雪十二月迄解氷

文化七年庚午

正月廿日より浅草大仏より佐渡塚系根幸と祖師開帳○同廿七日物産家

小野蘭山卒

八十四才一六十七才に於ける内
浅草寺に於ける小茶屋

○二月廿日より川口善光寺如来開帳

○二月廿九日より平河天満宮開帳○三月七日より回向院より越後國下宮より

大日如来開帳○同十日より浅草玉泉寺より鎌倉松葉谷長務寺祖師開帳

○同十五日石原徳水寺如来開帳

同十三日より十九日迄浅草唯念寺より同廿一日から廿七日迄
涌池院泉寺より四月朔日より七日迄浅草唯念寺より

下野高田山如来開帳○三月廿日以より以より津福禱祈本位太文死祭地本
新

某段○四月朔日より浅草柳橋祈祈本位開帳○同八日より深川淨土寺より新

曾妙於寺祖師開帳如来開帳曼荼羅を拜せしむ○五月十一日狂歌師秋野

屋裏位率七十七才金次所より信長公の表位といふ事上
赤の色の号とありしより深川法禪寺小茶屋○六月十五日より回向院より

嵯峨清凉寺轉迦如来開帳今年八例より系請多し○六月廿二日廿四日白

金覺林より清心公二百年忌供養開帳○八月朔日より護國寺より信

明座光寺村元若光寺如来開帳別當
座光寺○九月十九日加若遠塵殿卒七十七才この
羽の瑞雲寺

蕨のつゝ丹青を以て佛像を画する人之暇に故時典と小寛政八年成就し一五二
羅漢木の像五十餘幅あり大興禪師とれを賞しこれに文あり高き小松を

○十一月十六日東本願寺御堂再建上棟の式あり文化二年災後五年自より成終せり
今日高清の男女未明より奉集

供物飾物木目と譽るに斗りあり
棟梁と石塚志摩といふ○此冬マゴロの魚漁ある事夥し徳豆ねの三羽より

一日ふ一万本を獲るといふ○十一月十七日儒師諸葛琴臺卒名盛号琴臺
下谷養玉院小茶屋

同 八年辛未

○二月同

奮冬より為急し正月十日雪十七日大雪○正月廿四日豊田中時より

浅草茅町二丁目裏より出火表通りつゝ山代裏河原折橋万八樓迄焼九三

町ふ一所程あり早妻度くはるる○二月十日梨風申刻市谷谷町会佛飯

より出火四石赤坂麻布西窪飯倉赤羽坊上寺支院三石焼亡以て災より

て死亡の者二百餘人と云々○二月十三日村田春海卒六十六才錦織史一本祭後病終平田節と云國學不長一和宮せ

より以筆書一覽云寛平中の新撰字鏡を購ゆ世弘弘らハ筆法ヲ賜ふと云○二月廿日牛沼前王子権現

焼亡○閏二月十日小振津社内親世寺焼亡○月十八日より護国寺山内より

秩父札所親世寺焼亡尾中寺○月晦日より牛島長命寺寺才天焼亡

○三月十一日より池の妙善寺以て跋乃若本実相寺祖師焼亡

○三月十六日小永代寺以て信州戸隠明神九郎権持現焼亡別当 顕光寺

○四月初旬より風邪流行人のあり小袖の権持髪をさる蜀山人

○四月朔日より回向院奉為深院如未并後會天満宮焼亡○同日小菅湯町

某師肉を新座郡次上親世寺焼亡四月十日永代寺境内小芝居の飯や酒後程腐れて俄に傾き人怪象多く即死二を

○深川仲町登蝶斎といふ人天竺織りといふ物をして為歎草木を

造りて是なり○四月廿六日狂言師千種庵恒海卒五十一才株山中要助早霜菊と云春林あり今春株福吉小葉に

○五月十日より回向院より河及壺井八幡宮焼亡在傳ありて○月廿五日より

浅草新堀正新寺より常盤大塚村正新寺大蛇崎夜親書上人像焼亡

○七月十六日より揚場神明宮内天満宮焼亡○七月四日画人晁有輝卒松町の信子

○七月廿一日儒師宿谷空々卒名模株森本并○八月上旬毎夜多雨水の方常皇原

出下旬西小月え○九月三日小川奉前武蔵屋といふ旅店より火火烈風ありて

為創五丁程焼亡○十月二日儒師齋見星畢卒名丸株二并右馬つ六才云

○十月廿八日東本願寺法堂書院成徳延徳供養危傍秀樂と云及諸人夥し今

年岡山五百五十年の遠より○十一月十六日雪六時之南松馬町三丁目より出火

風之中通より出火岸一焼校寺枝木町河岸迄出夜九時終る九十二町程焼亡

○十二月二日書家荒木通齋卒名趣之株九信○十二月十一日夜九時五浅草柳橋

丸山若末と云

荷裏通りより出火為小風強く杉垣河辺川町より三筋町を越えより為福
寺唯念寺焼く○同刻小川橋向より出火穀例の辺に於て焼く

○江戸哥辭年代記刊行十五卷 立川馬馬作三序芝居の基より一の記録より
今年より十二年迄進み不中行

文化九年壬申

二月十五日より羅漢寺にて岡山念持佛河内院空来閑帳○二月三日より渋谷

長谷寺より京清水と親世吉閑帳 未清夥しく山閑帳
商人仮やれを列す ○三月五日より洲崎

秋天閑帳○二月より池の好音よりあく佐波の谷妙照寺祖師閑帳○三月十四日

より押上春慶寺善賢井閑帳○尚集本下川清光寺裏の通極樹を多

く載る○四月十六日三島自寛卒 六十八才名景雄称吉長三島中一も不徒必学和家也
又能書あり後景新垣若照寺不葬

○五月十八日より芝巻宿山より下総巻寺より 閑帳○月十八日儒師山本

北山卒 六十一才名信有称北山
石川茶軒中念寺不葬 ○五月廿五日觀相名人石竜子法服卒○七月大水

不切あり○七月八日法如英慶和上迂化 渋谷村宝泉寺不葬
世嘉 近世の碩徳 ○八月廿七日

武化老市場通災終 浅草院
寺不葬 ○八月末奉願寺中植本寺より不越後降興

寺宝物を拜せむ ○九月葉鴨條井の植本屋より葉の事を以人物を載

何れより色々の形を造りて諸人ふりて江戸中の其後日毎不群集

て見物しこれ八年毎不盛不あり九五十餘う不不文化十二年迄あり

より後造物ハ止む 武時葉の苗村案内記繪葉紙の
数あり不中

○九月三日下総國相馬郡代宿百姓忠義娘と八丈より男子を生母子

恙あり○十一月四日八半時大地震 あく土瓦毀れ用水桶の水をこぼり
石川津川辺にて強家倒傾怪奇人多

○十一月十七日書家田中為基卒 不葬
不葬 ○十一月廿二日夜五時三龍泉寺村より

出火南烈風より古京新町へ火移り又一廓幕く焼去り又より西水の

武江年表卷之七

風ふり田町一飛小る乃百親言述一曰丸町山の宿の辺迄焚焼し川
越く幸新番場所の辺少し焼る 若菜丁後宅田町聖天町丸町山の宿三谷
味川小六を不あり翌年八月元化へんる

○此秋吉羽町二丁目三丁目何々の西の裏子ふ上水の傍りせりて池をく
ら玉糸藤と号以て一丈五六尺幅をり除り乃左右山を作り四時の花木
を栽り例小茶店をかし往來の人乃休と新とあり天保の始より廢り

深山より落るる池の玉糸藤をくりてそりるるお正月の夜 蜀山人
りふそりるるも吉羽のまきまきとてそりるるゆるゆるの浪 縣鷹

○十二月十九日書家箕田牛山卒 号福後麻布宗嚴も牛山
長男也卒歿吉名階号徠山と云 ○十二月巖
寒も國川氷あり○十二月廿九日夜五時前桶町より出火西山烈風南傳

る町より系橋竹川岩金古町迄焼亡○此以カラシ糖といふ癩のくまら
賣街をりるく 蛇の目の故有る物商とてひ菅笠をうり烟袋を賣賣ふ声ふ
カラシトウと号せり後まきまき町小舖を由せりても程なく廢り

文化十年癸酉 十一月日

二月二日夜九時之三河町或丁月裏通よりお火して武家方四軒程三河

町二丁目三丁目皆川町永富町松下町鎌倉町新草屋町新焼夜明り店
焼る○同十五日夜亥半刻下谷所成道美田豊前彦の南隅を起り出

火烈風ふりて石川彦所を起り越り一丸一茶店の裏ふりて右ふひる
りり向例より仲町南例焼り以焼出池の端裏通り加名彦長を起り西の二枚橋

向料理屋松坂屋の例東の呉服店松坂屋の例々上野町山下を焼る
○三月より浅草より念佛堂より常州麻布右神宮不斷經所庚徳寺赤童子

園焼○三月八日より池の妙音より二の江妙徳寺祖師園焼○三月より隅田
川本母より本母若梅若丸像園焼○三月菱垣止船橋仲間十組同座株式

定 この町の人数
十九百九十九也 ○二月廿日より久保西向天満宮園焼○四月朔日より今
戸八幡宮園焼○五月九日より浅草芝先寺覺寺祖師園焼○夏芝愛宕山

控規岡地 ○五月愛宕山別當田福寺にて長鬚會あり秋田産の竹醫大関
大中之いへん取との難き老人を集めて書画の命を信以り

七十よきと云ふの意を信じてくすまわすは此月をあらん

○五月廿日より廿日のる九代目森田勲跡壽程言身形 ○五月廿日狂言師手柄

岡村幸 七十九才平沢氏名幸富号月成 狂言三波深川澤らの中一宗院幸 ○夏浅き老女并乞の池水車を仕掛人力を

用ずして人形を踊る色鳴物を鳴らす見せ物あり ○六月二日より回向院より

常洲筑波山棟原蚕影山権現開帳 ○六月初旬より蕎麦を食へ死るといふ

俗説初れ蕎麦を食ふ信ひあり ○八月八日書家大橋重雅卒 淡菜島福中 存心院小暮氏

○十月廿八日法橋五松雀林翁卒 翁は出羽米沢の人寛政中江戶より来りて京師に せりて坊城菅原君は菅家の孝法を授り菅家の 姓をとり五松を氏と以再び江戶よりおきて地を住し菅家を教授す今年七十才ありて卒し京本 院中徳寺にお葬り文化七年菅家書則遺義一卷を著して并小形

○十一月九日明六半時東より西方へ大ニ吹りの光物飛ぶ 飛舟は本村の垣に落ちて雷 の如く大なる野食の如き歎

しく肉翼の ありとあり ○十一月廿八日夜九時色品川宿指白火三所の除焼亡せり

○同月廿九日夜五時砂町西側より火為風烈く電河岸へ火又小風ふりり

和泉町東側より又坂町塚町草屋町為座の芝居難波町より町家物町

稲荷堀酒井彦田中より小堂より翌朝六時色品火す ○十二月二日善六時

より花川戸町去年焼跡より家々音妻焼跡追焼亡せり五十餘日雨を

く日く小火あり ○十二月四日官儒尾谷二洲卒 六十九才名孝榮林象舟 大塚庄蔵島小暮氏

○十二月六日書家相會平陵卒 七十三才名芳文林三四郎 淡菜島安子小暮氏 ○右京焼町八年以の切小

ありてあり今年地盤 唱家 の居宅一團以てみくより町名を唱せ奉り

文化十一年甲戌

正月十日夕七時色より俄小風吹あり和泉家屋を損次日初卯色品戸
妙義社系清群とありけるが此暴風小家根舟猪牙舟粒艘没して人多く

死（龜沢町中侍入道中次上三郎重） ○正月十四日善時八代例阿卷より出火

○正月廿五日更入松田龜五卒（号清風被納迎土物店） ○二月深川砂村元八幡宮

より午前四五時の石稚木の八重櫓を裁ふ毎妻遊觀多し

○二月二日より十五日の石崎弘法大師開帳 ○三月朔日より永代より成田

不動寺開帳（寺納帳大施町米俵造り物本點しつりつり米納） ○三月三日より日向

院より中總寺松村兼侍より不動寺仁五号（大九尺） 開帳 ○三月六日夜大石大

雷不（踏） ○同八日より押上法恩より永代國寺祖師大石天龜婦女教

寺法正寺開帳 ○三月十日書家佐野東洲卒（名個彩母） ○三月十八日六十日

の石法正親世より開帳同日より一の権現開帳（寺外境内の神位） ○同廿日より所

為八幡宮より後父子権現開帳 ○四月朔日より濃谷金王八幡宮開帳

○四月朔日より谷正法院稲荷明神開帳（林田平永町小折所より大廿九尺計りある稲）

舟月の門人 ○浅草より新彩を用ひて ○同日より浅草金花院子安親母より開帳

舟水あり ○自茲不沸く水の釜とせせ物と云 ○同日より浅草金花院子安親母より開帳

○同日より中野宝仙より不動寺開帳 ○月八日小石谷新宿子安親母より開帳

親世より開帳 ○月十九日より西新井弘法大師開帳 ○四月より七月中旬江戸

及徳園大旱魃（都下門小石谷と建て度と根ふ） ○六月十八日百瀬流筆道の師耕

元卒（長後耕雲門人あり今年七十八才赤坂法あり） ○七月朔日より日向院より河州

壺井八幡宮并権現開帳 ○七月系於上香羽村桂娘名代何某 官許

せつり勅化の為成家所登と巡行す ○七月より徳本上人小石川

傳通院より徳人小十念を授くる善穢の系諸筆集聯し

○秋護國寺親世音開帳（弟精輝） ○十月廿日夜上野所本坊火 ○十月書家

田中玉峰卒（名わ則） ○十月八日浅草より奥山（本名） 謎坊主と云ふ者あり（代智あそとのか者）

の盲坊主多る小ありては物より世をうけさるて即成小し、若解はるる時ハクハクあり人ふふとあり

つくまると金米俵菓子置物ありを飾りて小をなれりありと云ふり奥州二本松の産小し

武江年表卷之七

て名を遺書といふ事の重の如く継ぎて解く事、是を學ひ方りの向ふも出されとれ
あり及のさうありあり、翌年其身、うけとる事の渡不遠をの雪とて名ふ、東尾庵元龜

○十月七日儒師中長豊洲卒 名幹 稱周吉 号松圃 秋香庵

○十一月十七日佛人建法果地卒 号松圃

○墳墓圖志三卷字存成 一名秋風抄作者不詳 江戸市人の墓碑せあり

文化十二年乙亥

正月十日より雪度と降 二月四日迄 大雪なり江戸と城路の入り口 江戸人毎りちみちあり 東尾庵

○三月十一日より中山法花寺興院祖師 少閑帳 ○四月朔日より

廣尾天現寺毘沙門天閑帳 ○同十五日より江の橋上の宮倉大天閑帳 江戸より 未信迄

○四月日光山二百回所神忌所法會 ○六月朔日より日向院より秋父大

日向山太陽寺 ひげり 大士并帳 ○六月二日抱一君尾形光琳の百年忌修らる

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 稱文平 徳本大入信通院本堂為小

祖師開帳 ○四月朔日ハ獲國多ク相明松本親世言開帳 ○四月廿八日ハ浅草芝草
后法善寺以ク池ニ旅立リ祖師開帳 ○初夏より壬八月迄江戸度瘧流行人多ク

死以 ○五月三日朝草谷町桐長桐屋屋梁 東三馬寺 折子 江戸浅草南身院の翌年若狭の江
東海に橋脚郡下星川村松山明林の村本
亡切テ學シテ老角小芝居不登馬あり一六六林の祟ありやあんと人々を以て及老芝居休の日
傍々精ニ補經セリ也折子風もあり一六六と云ふ事一七自然ニ折子と云ふを怪談人ありて

○五月三日申刻在東京町三丁目ハ火一廓焼亡
板尾田町至天所山の宿所 丸町河川あり
○五月十七日
画人鈴木曼菴卒 六十年名雅一号老蓮 浅草新町大仙堂小菴 ○紫おとと始テ次
おとと曼菴とも菴蓋の程於此
おとと始テ價と公當りう寒を

○六月十八日ハ回向院ニテ府中深大寺元三大師開帳 ○閏八月二日四日
大風多人家を損一樹木七倒江戸中外出水 本寺秋の浅橋倒れ本不深川の辺
家一廊と一水あり

○九月七日戲作若山東京傳終 若山氏名碑 藤村氏
辛酉回向院小菴 ○俳家奇人於持の 替若玄二 編集
○九月梅振返り咲き ○九月以夜小入ていらくともあく物子と云り太鼓を打者
中めるといふ ○九月廿二日より幸橋所門外畠地小終て親世を交 春 湯賜 初進帳

身行あり 日殺の晴天十五日を期とす身行の乃攝中より共六と云ふ事 換密
樂在一条小焼亡以再い善法を以て身行 翌年九月小玉を獲 ○十一月十九日能人
不隨亦成美卒 信孫井筒在八部本寺
車返町蓮花寺小菴

文化十四年丁丑

正月十二日曉八時雨中新米物所南側より出火為瓦芝居焼亡岩代町大坂町
志左衛門町人形町通敷焼 ○正月月中旬能師律聖庵卒 此喜の慈母
梅子て同知り

小形野うま 句中小最早死移の 語乃一々表とありといふ ○二月九日画人金子金陵卒 名 元圭 ○三月朔日本所法
恩も祖師開帳 ○月二日ハ永代寺中ハ出火為能師開帳 ○月日ハ葛西花又村
替大町村開帳 ○月三日ハ青山光寺ハ難波塩江江院如來開帳 ○同十日より

十女房浅草寺親世言開帳 ○同日ハ浅草寺永代寺ハ打劫 与天拜祖師開
帳 ○月十日ハ浅草大仙寺ハ張明海長寺新法祖師開帳 ○青山梅窓院恭平
親世言開帳 ○月廿五日ハ香條親世言開帳 ○四月朔日ハ芝林所宮地内より

相及梅澤吉妻控現國情○同日より不忠他身天内去て上洲新田医王も旭

某師如未(平姓)○同日より月忌韓某師如未國情○四月朔日萩野崎谷為平

佛千社ありと号してこれを張る小庵年よりら刷毛を付て殺す大の之様の根をくといふも常くそ

子更以人より始りての寛政の以より始り天保の以より始りての保元平治の以より始りての

○四月十七日官医板田元伯卒 七十九年名醫号鶴軒 阿比下天徳も不葬

○五月四日官儒吉如(精里)卒 七十八年名模称保介 大堀山麻島も不葬

○八月九日官儒岡田寒(泉)卒 七十一才名怒 称保也

○十月廿二日晴天未刻以江戸

市中雷鳴の如き響きて光り物室中を飛ぶ 武及八王子横山霜の畑中へ降り 長三尺幅七寸厚六寸秘徳りる石也

此年同記事

文化の始より浅きも七月十日の四方より十日未赤き蜀黍を雷除くて商

ふり始る○浅きも奥山に社控現の后一人鷹の社を建る社辺小山次秋の載を載

景色を造り○日暮村小富士山を築く○日暮里青雲寺の布袋社巨像を

修性院へ移す○和合社の画像を移す始む 其國人の初る所なり近以法東止る徳物の 板も多かり画も上り題して和合生万福日造太平

銭隨亭高学書弟事吉兆國と有り貴人も常小末小樹られり大観平次市 其國人の初る所なり近以法東止る徳物の 板も多かり画も上り題して和合生万福日造太平

○叶福助といふ泥型人を作りたり 其の昔よりありては平二は女小判 してつりまうけりのあり

○江羽坂田那國友村鉄炮船治國友藤云清能者といふ人薬学の醫師山

田大園も清の蘭人携り来る所の鉄叢中へ風を籠め火薬火繩を用ずして

風の勢を以て放つ鉄炮へ別小形を以て加へて凝らし風乾又常乾と号し

て製衣し始む 蘭名ウインドルウルと云文政のときめより製衣する様も製衣のりめと 一發あり和製ハニ度之を不及びあり

○文化七八年の以て石菖蒲の異品と玩ぶ事盛なりしに柳小竹は梅小信一
 等様これを賞玩し所謂梅三種思竟黄金虎類細脊若生及卷老有極川一宗浦島
 雲山虎の巻物雲霞夜冬下天齋俄通係青葉廻入ると此の各あり

○此時代名家△儒家山本北山龜田鶴翁△太田錦城朝川善庵△詩市河
 寬齋大庵△氏館折湾榮地五山△書輪池屋代為中村佛房△後辺
 東河恭星他△國克明松本龜津董堂教義中川由義△井親孝
 △狂哥△歌蜀山人六樹園飯盛△文舎蟹子丸△三院冠法師千首樓堅丸純亭
 和坊琴通舍英賀△俳諧村田房小知宜妻自然堂風朗不随舟成美八采
 園菊松田喜庵漢物小兼庵碩嶺△画村野伊川院法平同曉川院
 法印同素川彰信抱一君谷文晁月文一依田井谷英一陸長谷川雲且
 鈴木南嶺大長雲峰春木南湖△鑄物師村田整民△碑碣彫刻窪世
 祥△金形工戸純富久△刀鍛冶水心子正秀手柄山正重大慶並胤

△時繪師茶更山羊造△坂内寛哉△浮世繪葛飾戴斗款川豊國月冬
 廣月國貞月國丸啼高北るを居法善柳居辰永折川室信泉守一揮石
 目若
 深川舟堤守琳月鷹菊川英山勝川春亭川春高甚多川美丸△花形と
 いう俗根の子竹乃そり○神乃藤敷後田伴勢美龍然部日向乃のり
 ○雨々屋取和年々小減り○角瓶人八十高富五郎不白の門小入て茶事せ
 とうく根存根存
 有根を○根岸山光と屋中長廿七石横四尺除の菴極あり一株の石樹
 あり文化の以て盛の以て下の繕人々小集ひし清む下文政始の以て
 果てり○尾久村深山玄琳といふ人の園中小牡丹数株を栽り花の以
 て物多かりし文化中より絶たり○文化の末大坂の竹本洋雲と更江
 戸小竹の標産小竹を茶れをかせり文政中近江戸小
 竹とてり○立川馬馬落咄の廢りて
 起て三女亭可樂朝麻坊安樂出て跡盛小竹も○狂言橋の模様遠明純

子の権塚又伊豫漆といふ漆物なる 伊豫漆といふ葉小 ○文化の始より居は

紙なる豆州製海旅舎の 比一なる名あるべし 今井某これを製し始りて商りむ

○和製漆器紙始 城戸の人朝正新後樂通称中川俊右衛門といふのくまかき若子の改竄一

あり下白磁所不徒一文化三寛年集 官許を以て後文政十三年

深川扇橋小斎地を賞與せりこれを製せりめて世に及ぶ又根十有横五右の依を製して宝業

紙と号し天保元年亥十月十八日ありて終り

○ギヤマンの洗器物を製し始り其製物素の 紅ふくもく ○琉球扇なる

り至る ○居風呂の鉄炮小火を焚て湯の中 金魚或ハ鯉の形をさる

てり各物とて为国儀並河蒸すあり

○小村玉地福荷社 此一なる名あるべし 一病瘵を患ふりの新形して其驗を得るよりあり

東清寺の事始り

武江年表卷之七終

